

第2学年普通科

シラバス (理 科)

愛媛県立大洲高等学校

教 科	理科	科 目	生物基礎	学 年	2	類 型	I・II型
単位数	2	教科書	生物基礎	出版社	第一学習社		
副教材							

学習の到達目標

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら生命活動や環境への関心を高める。
- (2) 目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
- (3) 基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。
- (4) 基本的な概念や原理・法則を理解し、活用する能力を身に付ける。
- (5) 習得した基本的な原理・法則を用いて、身近な生物学的な事物・現象を生物学的に解釈する能力を身に付ける。

授業の概要

- ・各学習集団の理解度に応じて教材を精選し、わかりやすいきめ細かな授業を行います。協働学習も適宜組み込み、学習に遅れる生徒を出さないよう工夫します。
- ・中学での既習内容を大切に、復習を踏まえた学習により授業進度を各学習集団に合わせて調整します。
- ・新しい内容を学習する際には、身近な現象・物質に関連付け、実験・観察を通してわかりやすく興味関心を持たせることのできる指導方法を工夫します。
- ・各学習の節目には、適切な課題やテストを実施し、個々の生徒の理解度を計りながら、適切な復習機会の提供や次回以降の授業進度の調整を行います。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の基本的な用語や生体内の反応を正しく理解している。 ・用語や生体内の反応を、その後の学習や生活の中で新しい事象の解釈に応用できる。 ・推論、実験、検証の過程で科学的な考え方や方法を用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できる。 ・課題の設定理由、研究課程、結果を的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の用語や生体内の反応に対して主体的に関わり、理解できる。 ・生物の用語や生体内の反応に対する気づきから課題を設定し解決しようとする態度を身に付けている。
評価の対象	定期考査・テスト・課題・授業時の観察など	定期考査・テスト・課題・授業時の観察など	学習への参加状況・課題など
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学 期	第1章 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と共通性について理解する。 ・顕微鏡の操作を学び、細胞観察の技術を身に付ける。 ・ATPの構造をを理解する。 ・生体内でのエネルギーの受け渡しの仕組みを理解する。 ・酵素の働き方や特徴について理解する。 	1学期 中間考査
	第2章 遺伝子とその働き	<ul style="list-style-type: none"> ・DNAの構造や遺伝情報との関係について理解する。 ・DNAの複製の過程について理解する。 ・細胞周期を理解し、細胞分裂の過程でのDNAの分の仕組みを理解する。 ・RNAの構造と役割を理解する。 ・DNAの遺伝情報の転写と翻訳の仕組みについて理解する。 ・DNAとゲノムの関係を理解する 	1学期 期末考査
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節	<ul style="list-style-type: none"> ・自律神経による体内環境の維持の方法について理解する。 ・内分泌系による体内環境の維持の方法について理解する。 ・体内環境の維持の仕組みを理解する。 	2学期 中間考査
		<ul style="list-style-type: none"> ・生体防御の仕組みを理解する。 ・自然免疫の仕組みについて理解する。 ・獲得免疫の仕組みについて理解する。 ・免疫と私たちの生活の関わりを理解する。 	2学期 期末考査
3 学 期	第4章 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ・植生と環境の関わりを理解する。 ・植生の遷移の仕組みを理解する。 ・日本や世界のバイオームの様子を理解する。 	
	第5章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系の成り立ちと生物多様性の大切さについて理解する。 ・生態系における生物どうしの関わり合いを理解する。 ・人間活動による生態系への影響とその対策について理解する。 	

第2学年普通科

シラバス (理 科)

愛媛県立大洲高等学校

教科	理科	科目	化学探究	学年	2	類型	I・II型
単位数	2	教科書	「探究」2023年度版 理科学習資料	出版社	高教研理科部会		
副教材	化学基礎 (数研出版)						

学習の到達目標

<p>(1) 探究活動を行うにおいて、適切なテーマを設定することができる。</p> <p>(2) 実験器具等の基本的操作に習熟し、基本的実験技術を向上させる。</p> <p>(3) 実験を通じてさまざまな化学物質の性質や特徴を理解する。</p> <p>(4) さまざまな科学的問題を実践的に解決しようとする態度を養う</p> <p>(5) さまざまな科学的問題を実践的に解決できる能力を養う</p>

授業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、各学習集団の理解度に応じて教材を精選し、わかりやすいきめ細かな授業を行います。協働学習を組み込み、学習に遅れる生徒を出さないよう工夫します。 ・1年次に学んだ化学基礎を基本に、復習を踏まえた学習により授業進度を各学習集団に合わせて調整します。 ・新しい内容を学習する際には、身近な現象・物質に関連付け、実験・観察を通してわかりやすく興味関心を持たせることのできる指導方法を工夫します。 ・各学習の節目には、適切な課題や小テストを実施し、個々の生徒の理解度を計りながら、適切な復習機会の提供や次回以降の授業進度の調整を行います。
--

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察における基本的な技術を身につけている。 ・他者と協力し、自身の役割分担を責任を持ってやり遂げている。 ・化学に関する基本的知識を身につけ、その知識に忠実に実験を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習にさいし、科学的な考察のもと適切に実験操作が行われている。 ・実験・実証の目的を理解し、実践的な取り組みができています。 ・実験結果を基に、適切な考察ができ、その内容を適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの物質や科学現象に主体的に関わろうとしている。 ・問題解決の過程を振り返り、考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 ・与えられた課題について、主体的かつ積極的に取り組んでいる。
評価の対象	定期考査・課題・授業時の観察など	定期考査・課題・授業時の観察など	学習への参加状況・課題など
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい (内容のまとめりごとの評価規準)	定期考査
1 学期	第1編 探求活動の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定の効果的方法を理解している。 ・探求活動を効果的・効率的に展開できる。 ・実験を行う上での準備が適切に実施できる。 	1 学期 中間考査
	第2編 実験及び演習 I	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に取り組む上での心構えを理解している。 ・危険物の取り扱いに関する知識が身につけており、適切に扱うことが出来る。 ・廃液の取り扱いが適切にでき、実験器具等の洗浄も適切に出来る。 ・実験レポートを格上での配慮すべき事項を理解している。 ・基本操作に習熟している。 ・混合物の分離実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 	1 学期 期末考査
2 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・成分元素の分析実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・三態変化の実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・同素体の実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 	2 学期 中間考査
		<ul style="list-style-type: none"> ・マグネシウムと塩酸の反応実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・炭酸カルシウムと塩酸の反応実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・物質の極性実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 	2 学期 期末考査
3 学期	第3編 実験および演習 II	<ul style="list-style-type: none"> ・中和反応実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・電池実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 ・電気分解実験について原理を理解し、正しく操作して実験に取り組める。 ・問題演習を通じ理解を深める。 	3 学期 期末考査